**大会試合細則**

１　試合はトーナメント方式とする。

出場選手数　1チーム25名以内とし、学童、中学の男女とする。

２　イニング

(ａ)中学部7回、学童部6回とし、以後はタイブレーク方式を採用する。

(ｂ)オレンジボールは５回とし、以後はタイブレーク方式を採用する。

(ｃ)オレンジボールは７点が入った時点で攻守交代とする。

３　試合時間

(ａ)中学部、学童部は、試合開始時刻から1時間30分を過ぎたら新しいイニングに入らない。

(ｂ)オレンジボールは、試合開始時刻から1時間10分を過ぎたら新しいイニングに入らない。

(ｃ)いずれの場合も、時間を優先する。

４　タイブレーク方式

中学は7回、学童は6回（オレンジボール5回）終了時、または試合制限時間を過ぎて同点の場合は特別　　延長戦を最大2イニング行なうこととし、勝敗が決しない場合は、抽選とする。

（無死満塁継続打順とする）

５　コールドゲーム

(ａ)中学部、学童部は、3回15点、4回10点、5回以降7点差以上となった場合試合終了とする。

(ｂ)暗黒、雨天等にて試合続行が不可能と審判員が判断したときは試合を終了する。

ただし、4回（オレンジボール3回）を終了し得点差のあるときは正式試合、同点の場合は再試合とする。

６　準決勝及び決勝戦

(ａ)中学部は7回2時間とし、以後はタイブレーク方式を採用する。

(ｂ)学童部は6回1時間50分、オレンジボールは5回1時間30分とし、以後はタイブレーク方式を

採用する。

７　試合球　学童部Ｊ号、中学部Ｍ号とし各チーム負担とする。（オレンジボール大会は連盟負担とする）

　　　　　　（試合球は、ナガセケンコー（株）製ケンコーボール各号とする）

８　投球制限

　　１人の投手は（学童部1日70球以内、中学部1日100球以内）を投球することができる。

試合中に（学童部70球、中学部100球）に達した場合、その打者が打撃を完了するまで投球できる。

なお、ボークにも関わらず投球したものは、投球数とする。

９　守備交代した投手

守備交代した投手は投球制限に達していない場合は、再び投手に戻ることができる。

10　ボークは１回目より適用し、宣告する。（オレンジボールは採用しない）

11　ベンチは、組合せ番号の若い方を１塁側とし、先攻、後攻は試合前のトスにより決定する。

12　抗議権による抗議は、監督及び当該プレイヤーのみとする。

13　試合前、チームは5分間を限度にシートノックを行うことができる。ただし、進行状況によっては、審判員の指示に従うものとする。

14　用　具

　　　(ａ)金属・ハイコンバット（複合）は、Ｊ.Ｓ.Ｂ.Ｂ公認マークの入ったものを使用すること。

(ｂ)学童部のバットの使用制限

　　学童部では、一般用バットのうち、打球部にウレタン、スポンジ等の素材の弾性体を取り付けたバット

の使用を禁止する。なお、一般用バットであっても、上記以外の木製・金属製・カーボン製・複合

（金属／カーボン）バットについては使用制限を行わないこととする。

　　　(ｃ)打者、走者、次打者、ベースコーチは、ＳＧマーク、Ｊ.Ｓ.Ｂ.Ｂ公認マークの入った両側にイヤーフラ

ップのついたヘルメットを着用すること。

　　　(ｄ)捕手は、Ｊ.Ｓ.Ｂ.Ｂ公認マークのついたマスク（スロートガード付）、レガーズ、プロテクター、ＳＧ

マークのついた捕手用ヘルメットを装着すること。（ファルカップを装着することが望ましい）

(ｅ)ベースは固定とする。（オレンジボールも固定とする）

(ｆ)学童は、金属製金具のついたスパイクの使用を禁止する。

15　場外に打ち出された試合球については、１塁側、３塁側は各ベンチでネット付近は攻撃側が速やかに取りに

行くこと。（なお、草地に入った場合は父兄が取りに行くようお願いします）

16　チームは、スポーツ安全保険に必ず加入すること。

17　上記以外は、当該年度全日本公認野球規則、競技者必携により行い、グランドルールについては、試合前担当審判員より説明する。

18　上記試合細則は、令和6年度葛飾区少年軟式野球連盟主催大会より適用する。

令和6年3月1日改訂